

第4回八ッ場ダムモニタリング委員会

議事概要

「第4回八ッ場ダムモニタリング委員会」において、八ッ場ダムに関するモニタリング調査結果、モニタリング調査計画等の審議を行った。

主な審議結果は、以下のとおりである。

- これまでのモニタリング調査は、計画どおり実施されており、十分なデータが取得できているといえる。
- 水環境の評価にあたっては、水質調査結果や室内実験結果のデータ解析だけでなく、現象の背後にあるメカニズムを明らかにした上で行う必要がある。
- 動植物の生息生育環境の変化については、広い視点での評価が重要であり、事業実施区域周辺の変化についても確認しておく必要がある。
- 生物相の変化については、湛水前後の数年間の調査からだけでは評価が難しい。既往の環境影響検討時からの長期的な視点での評価も必要である。
- ダム湖においてウグイが増えている。これはプランクトンの増殖が関係していると考えることから、これらの整合性についても整理することが望ましい。
- フラッシュ放流については、ダム運用前の下流河川の状況を踏まえ、将来の目標を設定していくことが重要である。
- 今回のモニタリング調査結果を踏まえ、環境保全対策箇所などの今後の維持管理方針について検討していくことが望ましい。

以 上